

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育研究支援体制の整備を行う。	→任期制教員数。 →ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント、技術スタッフおよび任期制教員の数。	B	B			
2. 教員の研究時間を確保する。	→教員1人当たりの委員会数。	C	C			
3. 理工学研究科と関連する倫理規定について啓発活動を行う。	→倫理講習会の開催数。	A	A			
4. セミナーが適切な人数で行える施設を確保する。	→セミナーに使える教室数。	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	<p>(方針) 大学院教育の活性化のためのセミナー室、自習・食事・休憩スペース等の確保が課題となっている。教員の学部教育にかける時間は増加傾向にあり、大学院教育の活性化には不可欠である教員の研究時間や研究費獲得に要する労力・時間の確保が難しくなっている。このような現状で教育研究を支援する環境や条件を整備し大学院を取り巻く諸問題を解決するための方針として、現有施設・設備の整備と転用、大学院進学率の維持、向上とTA・RAの人材・財源の確保、大学院生のキャリア支援、会議の簡素化、プロジェクト研究の推進、を進めていく。</p> <p>(説明) 新たなスペースの確保に関しては2010年度には特段の進展は見られなかった。TA・RAなどの教育支援要員を取り巻く状況についても進展は認められていない。 大学院教育と密接に関係する先端的研究環境の整備については、2010年度は4件のJST、1件のNEDO件、6件の文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業含む)のプロジェクトが稼働している。これらの事業を通してRA、博士研究員などが多く採用され、大学院生にとっても刺激となっている。外部資金、特に科研費については近年[採択率/専任教員数]の漸減が懸念されており、申請書作成のための講習会も開催されているが、一足飛びの効果は表れていないのが現状である。一部の教員に過重な負担が集中する傾向は2010年度も改善せず、これら多忙な教員が研究時間を確保し、自身が指導する大学院生に対し、研究を通じて良質な教育を行うことは困難になってきている。</p>
その他	

《評価指標データ》

- 専任教員の研究費（実績）【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	理工学部では人権、障がい者、倫理等に関する研修会を毎年1回開催している。また動物実験、ヒトゲノム、遺伝子解析研究に関する安全倫理委員会があり、年に1回講習会を開催している。
	その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】
○様々な制約はありますが、教員の研究時間の確保、施設整備が更に進展することが望まれます。研究倫理規定の啓発活動は大変進んでいます。

【学内委員】
○物理的な研究環境や研究支援体制の整備がなかなか進んでいない点は、学院全体の予算との兼ね合いもあり、それなりに理解できます。そのような状況下において、先端的な研究環境の整備を外部資金を中心に行っている点は非常に高く評価できます。また、人権や障がい者、倫理に関する研修会を必ず実施している点も評価できます。
○グローバル化が進む中、そして大学院が重点化される中、どのような施設・設備環境が良いのか検討が必要ではと思われます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目9.0.4
基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」
- 小項目9.0.4&9.0.5
達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。」
- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

9.0.4(現状説明)

★ 大学院のグローバル化と重点化に際して、更なる外国人大学院生の受け入れと女子大学院生の比率を増やすための施設・設備環境の改善は優先順位の高い項目である。前者に対しては2012年度の開設を目指した英語修士コースの設置の議論の中で検討が行われている。後者に関しては理工学部で救護室に若干の設備を整えて、救護室としての使用のない夜間に女子学生専用の仮眠スペースとして提供することで、長時間におよぶ実験や論文作成時の女子学生の便宜をはかるようにした。